

乳児紙おむつ支給事業

【問い合わせ先】 こども課 28-6027

地方創生・人口減少対策として、子育て支援は国全体で取り組んでいる重要なテーマです。

本市においても、今年4月からの「子ども・子育て支援新制度」のスタートに伴い、認定こども園の設置など保育サービスの充実が図られています。また、10月からは中学生までの通院医療費が無料化されるなど、さまざまな子育て支援の取り組みを進めています。

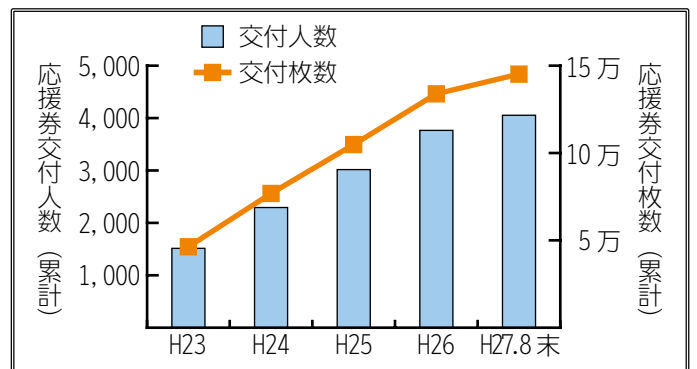
その中でも、乳児紙おむつ支給事業は、「日本一の紙のまち」である本市ならではの子育て支援事業です。市内に本社がある子ども用紙おむつメーカー、大王製紙株式会社とユニ・チャーム株式会社の2社と協力し、1歳になるまでのお子さんがいる保護者に「子育て応援券」を交付して、紙おむつを無償で提供しています。



これまでの実績

事業が始まってから今年で5年目を迎えました。この間の利用実績は右図のとおりで、今年8月末現在で約4,000人に対し、約14万5,000枚の子育て応援券を交付しています。

また紙おむつ代の助成金額は、累計で約1億7,400万円となっており、このうち3分の2を企業が、3分の1を市が負担し、まさに官民一体となった子育て支援を行っています。



利用したお母さんにインタビュー！



中野恵美さん
譲くん (2歳)

生後5か月頃から乳児保育所に通っていて、家庭と両方でたくさんおむつが必要になるので、すごく助かりました。こまめにおむつを替えられたので、清潔を保つことができたという点でもよかったなと思います。特に新生児の頃は、1人目ということもあり、神経質になって1日に何回も替えていましたね。1パックが1週間くらいで無くなっていました。来年1月に2人目が生まれる予定なのですが、ほかの子育て支援サービスを利用したり、イベントにも参加したりしたいと思います。



星川麻利江さん
葵心ちゃん (2か月)

子どもは3人目ですが、この事業は初めて利用しています。まだ数回の利用ですけど、すごくありがたいですね。お医者さんからも、小さい時はこまめにおむつを替えるように言われていたのですが、上の子の時はなかなか替えられず、かぶれがひどかったので、おむつが無料なのは助かります。他市に住む兄がうらやましがっていました。今は応援券が1歳までしか使えないのですが、券が余ってしまったという話を聞いたことがあるので、できればもう少し長い期間使うことができればいいと思います。

紙おむつの支給を受けるには？

「きみはまちのたから 子育て応援券」は、保健センターで育児ノートを配布する際にお渡ししています。市内の登録店で対象商品と引き換えてください。

